

# 自分を守り地域を助ける

伊勢崎市立宮郷中学校 二年 羽鳥 恵太

ここ数年、日本各地で台風や集中豪雨などによる大きな災害が起きていて、「防災」という言葉をよく目にするようになりました。でも、僕の家周りには山も大きな川も無いので、どこか他人事のように思っていました。

しかし、2019年に群馬県にも大きな被害をもたらした台風19号は、僕の防災意識を変えるきっかけになりました。

台風19号は、観測史上最大の雨を関東や東北地方に降らせ、僕の町にも「避難勧告」が初めて発令されました。僕はすぐに避難するつもりでしたが、ハザードマップを見た母は「暗い中で避難所へ移動するのは危ないから、洪水になったら2階に避難すれば大丈夫。」と言って、自宅に留まることにしました。

僕の町には洪水などの被害はありませんでしたが、全国で105名、群馬県内でも4名が亡くなりました。亡くなった人の多くは土砂崩れなどの土砂災害が原因でした。

今年の7月も熱海市で大雨が降り続き、大規模な土石流が発生して、多くの犠牲者とたくさんの方が被害がありました。テレビでは、真っ黒な土石流がすごい速さで家も車も飲み込んでいく様子を何度も流し、見るたびに土砂災害は恐ろしいなと思いました。あの日から1ヶ月が経ちますが、今も見つかっていない行方不明者がいるそうです。

僕が住んでいる伊勢崎市は、山がない平らな所です。家にいれば土砂災害の被害にあうことはありません。でも、日本の3分の2は山地です。群馬県も山ばかりな県です。今住んでいるところが安全だとしても、狭い日本の上では、誰もが土砂災害に巻き込まれる可能性があるなと強く思いました。

土砂災害は、洪水のように目で見て予測することが難しい災害だそうです。では、土砂災害から命を守るにはどうすればいいのでしょうか。

国では、熱海の土砂災害をきっかけに、土砂災害危険箇所の緊急点検を行っています。点検で見つかった危険箇所をすぐに直せば、想定内の災害を防ぐことは出来ると思います。でも、最近の雨の降り方は、以前に想定した量をはるかに超えています。天気予報では、「過去に経験したことのない」とか「観測史上最大の」という言葉が頻繁に使われています。そこで、想定外の雨が降っても土砂崩れなどが起こらないように、今より頑丈な擁壁を作る工法や永久的に劣化しないコンクリートを開発して、住宅のそばや道路に面している場所から順番に工事をしてはどうでしょうか。そうすれば、ハード面の対策でほとんどの災害を防げるようになると思います。

では、ハード面の対策だけで僕達の命は守られるのでしょうか。  
今のペースで温室効果ガスが増え続けると2100年には地球の平均気温が約2度上昇すると言われて

います。年間に降る雨の量が増え、台風もどんどん巨大化すると予想されているのです。  
僕達が災害から身を守るためにすぐやらなければいけないことは、地球の環境を守り、これ以上温室効果ガスを増やさないために、省エネやごみの減量など、出来ることから始めることだと思います。

もうひとつ、僕達が土砂災害から命を守るためには、日頃から防災意識を持ち続けることが大切です。  
被害者のインタビューを聞くと、「何十年も被害はなかったから、自分には関係ないことと置いていた」と話す人がたくさんいます。でも、今の地球の環境は、以前とは大きく変わっています。今まで大丈夫だった場所でも土石流が起こるかも知れないのです。油断は禁物なのです。

そして、少しでも危険と思ったら、ちゅうちょせずに避難してください。避難のスイッチを入れるためには、ソフト面の対策が重要になります。いつ、どこで土砂災害が起こりそうかを地図アプリなどで誰でも簡単に見られるようにしてはどうでしょうか。

地域のつながりも今まで以上に大切になってきます。一人暮らしの高齢者の人たちが、安全に避難するために、近所の人の協力が不可欠です。

僕が地域のために出来ることって何だろうと考えてみました。近所のお年寄りに声をかけて一緒に避難することや、避難所で小さな子供と遊んだり、掃除などの雑用は出来ます。小学生に勉強を教えたり、話し相手になって気分転換をさせてあげることも中学生だからこそ出来ます。みなさんも地域を守るために何が出来るのかを考えてみませんか。地域を守ることは自分を守ることにつながるはずですよ。